



令和6年4月24日

**手術支援ロボット「ダ・ヴィンチ」年間手術件数が全国国立大学病院第1位に
消化器外科4領域ではそれぞれ100例に到達・西日本初！
～より多くの患者さんにロボット支援手術を届けたい～**

◆発表のポイント

- ・岡山大学病院は、手術支援ロボット「ダ・ヴィンチ」⁽¹⁾ 3台（Xi 2台、Si 1台）を運用しています。
- ・低侵襲治療センターが中心となって、診療科横断的にダ・ヴィンチ 3台の手術枠の効率的運用を図っています。
- ・2023年のロボット支援手術件数は587件で、全国国立大学病院で第1位の実績でした。
- ・2024年3月には、食道、胃、大腸、肝胆膵の4領域において、それぞれのダ・ヴィンチ支援下内視鏡手術件数が100例を達成しました。これは西日本初の実績となります。

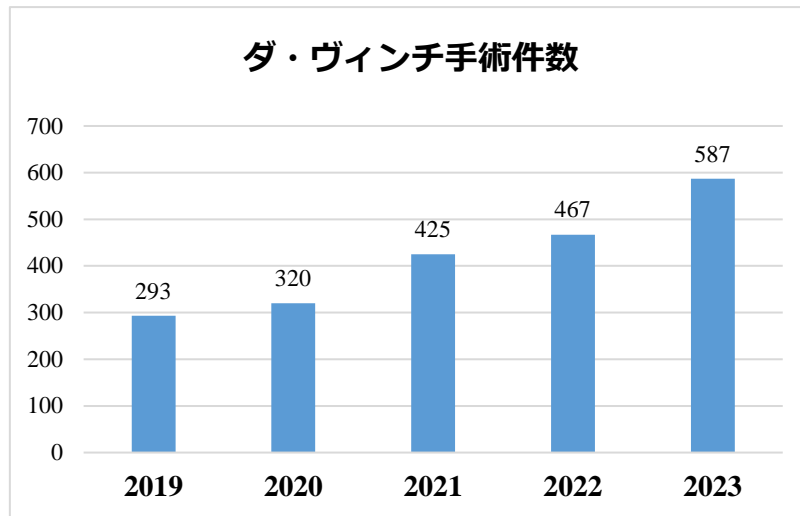
岡山大学病院では、患者さんの体への負担が少ない内視鏡手術の利点を向上させるため、2010年に手術支援ロボット「ダ・ヴィンチ」を初めて導入しました。2023年4月から手術支援ロボットの保有数は3台（ダ・ヴィンチ Xi 2台、ダ・ヴィンチ Si 1台）となり、多くの診療科でロボット支援手術を実施していますが、低侵襲治療センターが中心となって診療科横断的にダ・ヴィンチ 3台の手術枠の効率的な運用を図り、手術件数の増加に対応できる体制を整備してきました。

その結果、2023年は泌尿器科、消化器外科、呼吸器外科、産婦人科領域で580件を超えるダ・ヴィンチ支援下内視鏡手術を行い、これは全国国立大学病院で第1位の実績となっています（図1）。

また、2024年3月には、消化器外科4領域（食道、胃、大腸、肝胆膵）において、それぞれのダ・ヴィンチ支援下内視鏡手術件数が100例を達成し、これは西日本初の実績となりました（当院調べ）。

今後も低侵襲治療センターがロボット手術を総合的にマネジメントし、病院内外への情報発信を行うとともに、対象手術のさらなる増加に迅速かつ適切に対応していけるよう努めます⁽²⁾。

岡山大学病院は特定機能病院として、これからもひとりでも多くの患者さんに質の高い先進的かつ高度な医療を提供できるよう努めます。



【図1】ロボット支援手術症例数の推移

■補足・用語説明

(1) 手術支援ロボット「ダ・ヴィンチ」:

複雑で緻密な動きができるアームと高性能カメラが付いたロボット。体の表面に開けた小さな穴からカメラを入れ、映像を確認しながらロボットの手を動かす内視鏡手術の一つ。執刀医は手術台から離れた作業台に映る 3D 画像を見ながら、アームの先端に取り付けられた鉗子を操作して、がんなどの患部を切除する。



現在日本で使用されているダ・ヴィンチには、Si タイプと Xi (X) タイプがある。このうち最新型は Xi タイプで、Si タイプに比べるとロボットアームがスリムになるなどの改良が加えられ、より自由度が高い手術を実施することができる。また、特殊なカメラ（蛍光カメラ）が装備されたため、ICG（インドシアニングリーン）という薬剤を用いて、血流の評価やリンパ節郭清（リンパ節を取り除く手術）の精度を上げることが可能となっている。

(2) ロボット支援下内視鏡手術の保険適用対象:

2022 年度の診療報酬改定で、ロボット支援下内視鏡手術の保険適用対象部位が拡大し、従来の前立腺、膀胱がん、縦隔腫瘍、肺がん、食道がん、胃がん、直腸がん、すい臓がん、子宮体がんに加えて喉頭・咽頭悪性腫瘍、総胆管拡張症、肝がん、結腸がん、腎がん、尿管がん、副腎腫瘍が対象となった。



<お問い合わせ>

岡山大学病院低侵襲治療センター（消化管外科）

講師 寺石 文則

岡山大学病院低侵襲治療センター（泌尿器科）

講師 小林 泰之

岡山大学学術研究院医歯薬学域（医）消化器外科学分野

教授 藤原俊義

（電話番号）086-235-7257 （FAX）086-221-8775

（URL） <http://www.omit-okayama-u.com>



岡山大学は持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。